

2010(平成22)年度 後期 微分積分学 B

- 1 (1) \mathbb{R}^2 の部分集合 $M = \{(x, y) \mid (x, y) \in \mathbb{R}^2, \lceil 0 < x^2 + y^2 < 1 \rceil$ または $\lceil y = x, 1 < x \leq 2 \rceil\}$ について, M の境界 (M の境界点の全体) を図示せよ.
 (2) \mathbb{R}^3 の部分集合 $M = \{(x, y, z) \mid (x, y, z) \in \mathbb{R}^3, z = 0\}$ に内点はあるか.

- 2 $D = \{(x, y) \mid (x, y) \in \mathbb{R}^2, 0 < x, 0 < y\}$ とし,

$$f(x, y) = \frac{x^3 - y}{x^3 + y} \quad ((x, y) \in D)$$

とおく. 半直線 $L: x = \alpha t, y = \beta t$ ($t > 0$) (ただし $\alpha > 0, \beta > 0$) に沿っての f の極限值 $\lim_{t \rightarrow +0} f(\alpha t, \beta t)$ を求めよ. f は $(x, y) \in D, (x, y) \rightarrow (0, 0)$ のとき, 収束するか (極限値をもつか).

- 3 $f(x, y, z) = (1+x)^a (1+y)^b (1+z)^c$ ($(x, y, z) \in \mathbb{R}^3$) の第3階偏微分係数 $f_{xyz}(0, 0, 0)$ を求めよ. ただし a, b, c は正の整数.

- 4 $F(x, y, z) = (x+z)^3 + (y+z)^3 + x+y+z$ ($(x, y, z) \in \mathbb{R}^3$) とおく. $F(x, y, z) = 0$ から, $(x, y, z) = (0, 0, 0)$ のある近傍で x, y の関数 $z(x, y)$ がただひとつ決まることを示し, $(x, y) = (0, 0)$ における $\frac{\partial z}{\partial x}$ の値を求めよ.

- 5 $A = \{(x, y) \mid (x, y) \in \mathbb{R}^2, 0 \leq y \leq 1, 0 \leq x \leq y^3\}$, $f(x, y) = (y^4 + 1)^a$ (ただし $a > 0$) とおく.

(1) 二重積分 $\iint_A f(x, y) dx dy$ を二通りの累次積分で表せ.

- (ア) y についての積分, 次に x についての積分の形
 (イ) x についての積分, 次に y についての積分の形

(2) $\iint_A f(x, y) dx dy$ を求めよ.

- 6 $n \geq 2, D = \{x \mid x = (x_1, \dots, x_n) \in \mathbb{R}^n, x_1 > 0, \dots, x_n > 0\}$ とし,

$$f(x) = x_1 \times \dots \times x_n \quad (x \in D), \quad \varphi(x) = x_1 + \dots + x_n - n \quad (x \in D)$$

とおく. 条件 $\varphi(x) = 0$ のもとで, f が極値となりうる点は $(1, \dots, 1)$ (すなわち $x_1 = \dots = x_n = 1$ となる点) だけであることを, Lagrange の未定乗数法を用いて示せ.